



「金融リテラシー度とファイナンシャル ウェルビーイングに関する実態調査」(2023年)より

令和の“金融リテラシー”事情

2023年7月

三井住友信託銀行

三井住友トラスト・資産のミライ研究所

- (1)調査名:「金融リテラシー度とファイナンシャル ウェルビーイングに関する実態調査」(2023年)
- (2)調査対象:全国の18～69歳 ただし関連業種(金融、調査、マスコミ、広告)従事者を除く
- (3)調査方法:WEBアンケート調査
- (4)調査時期:2023年1月
- (5)サンプルサイズ:11,190
- (6)サンプルの属性(年代別数)

18-29歳	2,071
30-39歳	1,923
40-49歳	2,498
50-59歳	2,504
60-69歳	2,194

*ウェイトバック集計:住宅ローン有無×性別×年代により、ウェイトを付けて集計 *各図表における構成比は小数第二位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはならない

1

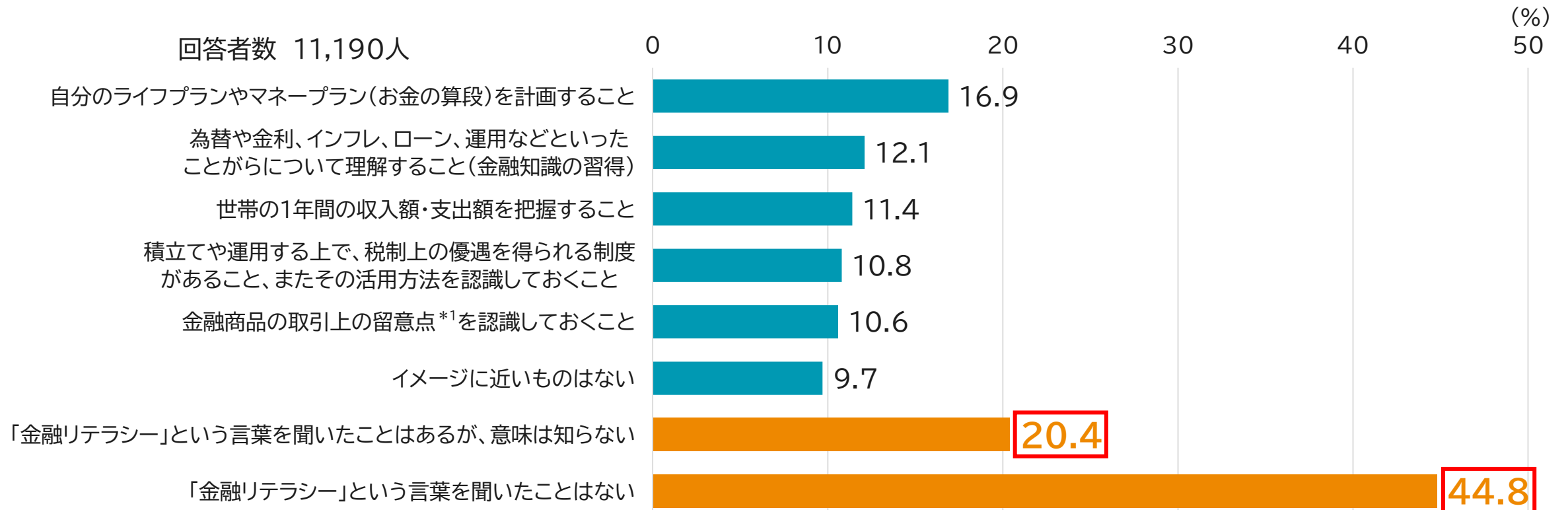
「金融リテラシー度」の測定について

- 「金融リテラシー」の認知度は途上段階
- 約1万人の「金融リテラシー度」をスコア化
- 「金融リテラシー度:順調」が全体の半数以上(51.7%)
- 【ご参考】 各要素の得点分布について

「金融リテラシー」の認知度は途上段階

- 「金融リテラシー」について「聞いたことはあるが意味は知らない」人数の割合は20.4%、「聞いたことはない」は44.8%
- 明確なイメージを持っていない人の割合が高く、「金融リテラシー」というワードの浸透は途上段階であるといえる

図表1 「金融リテラシー」という言葉を聞いてどういったことをイメージしますか(複数回答可)



*1 金融商品の中には元本割れをするものがあること、手数料が必要となるものがあることなど取引上の留意点 *5%未満はグラフ内の比率表示を省略

約1万人の「金融リテラシー」をスコア化

- 全国の18歳～69歳、約1万人を対象に調査を実施
- 「家計と金融リテラシー」に関するアンケート設問を設定し、「①家計把握力・②知識と判断力・③行動力」*を測定
- 三要素の総合得点から「金融リテラシー度」を三段階(良好・順調・不足気味)として算出し、スコア化

*①家計把握力:家計の現在把握や将来への備え ②知識と判断力:金融関連の知識 ③行動力:資産形成・活用に関する意識

「家計と金融リテラシー」に関するアンケート設問

- Q あなたは、あなたご自身(もしくはあなたのご家族)のライフプランを立てていますか。
- Q あなたは、世代の異なるご家族と、お金について会話していますか。
(例:子供や親、祖父母などと、資産運用・管理・継承について など)
- Q あなたは、あなたの世帯の1ヶ月の収入額と支出額をしっかり把握していますか。
- Q 一問一答リテラシークイズ (全11問)
- Q あなたは、金融商品(預金、有価証券、保険など)を選択する際に、誰かに話を聞いたり、新たに情報を探したりしますか。
- Q 次の各種制度をご存じですか。(複数回答可) ※財形・DC・iDeCo・NISAなど
- Q (知っているものについて)その制度を利用していますか。
- Q 同年代と比較して、ご自身の金融リテラシーは高いと思いますか。
- Q あなたは、世帯主(あなたご自身)の病気や怪我、事故などにより一時的に収入が減少する場合に備えて、生活資金を準備できていると思いますか。
- Q あなたは、自己実現(幸せ)に向けてお金の面で苦労していますか。

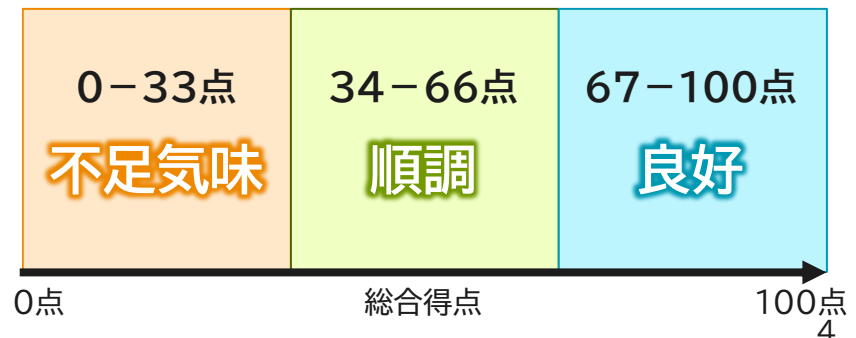
金融リテラシー度

① 家計把握力

② 知識と判断力

③ 行動力

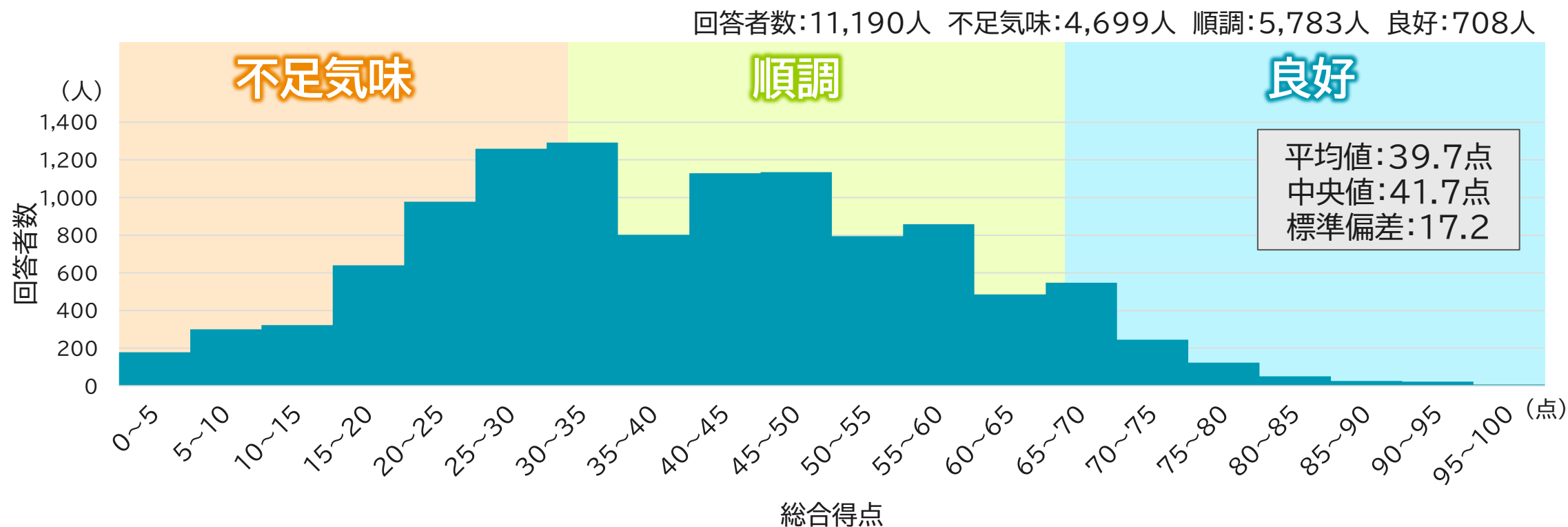
総合得点別「金融リテラシー度」判定結果



「金融リテラシー度：順調」が全体の半数以上(51.7%)

- 「金融リテラシー度」の得点分布としては「不足気味:42.0%」、「順調:51.7%」、「良好:6.3%」

図表2 「金融リテラシー度」の得点分布

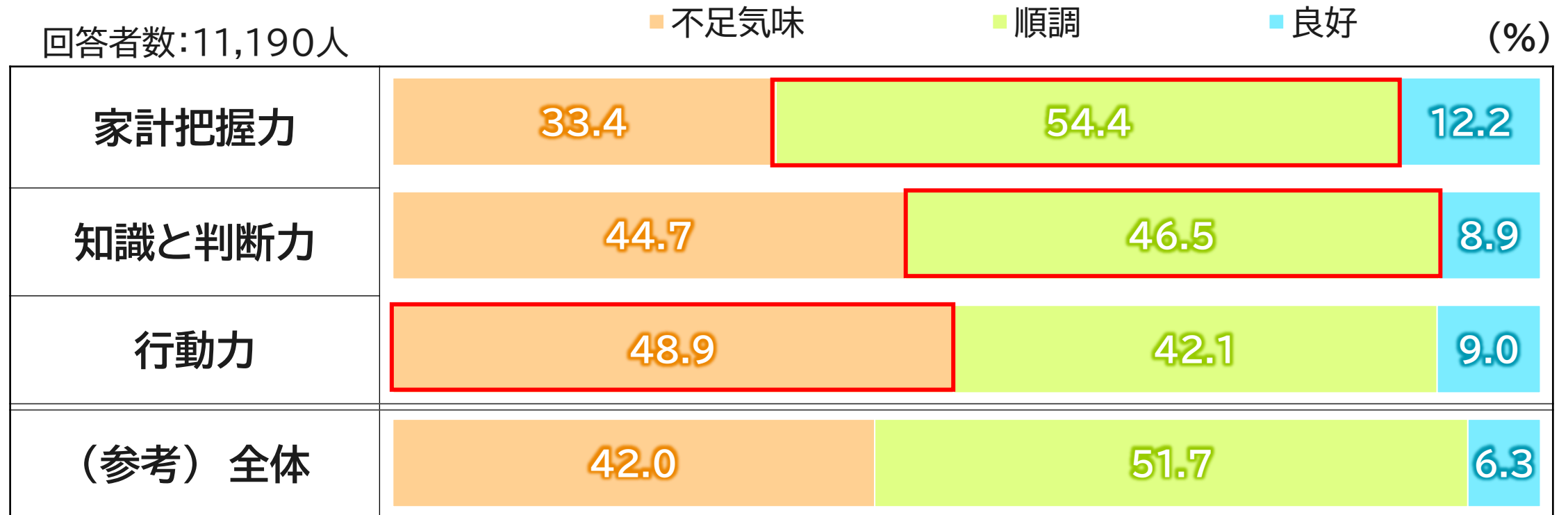


*「家計把握力」「知識と判断力」「行動力」の総合得点から、0~33点:「不足気味」、34~66点:「順調」、67~100点:「良好」として算出

【ご参考】 各要素の得点分布について

- 「家計把握力」・「知識と判断力」・「行動力」における得点分布を算出
- ボリュームゾーンは、「家計把握力」「知識と判断力」は「順調」、「行動力」は「不足気味」となった

図表3 各要素の得点分布



*「家計把握力」「知識と判断力」「行動力」それぞれの得点を割合換算し、0%～33%:「不足気味」、34%～66%:「順調」、67%～100%:「良好」として算出

2 「金融リテラシー度」が高い人の特徴は？



金融教育

- 金融教育経験がある人は「金融リテラシー度」が高い傾向
- 知識×実践で「金融リテラシー度」に大きな差



資産形成

- 「金融リテラシー度」が高い人ほど年収が高い傾向
- 「金融リテラシー度」が高い人ほど年間の資産形成額が多い傾向
- 年収に関係なく「金融リテラシー度」が高い人ほど資産形成額が多い傾向



住まい

- 「金融リテラシー度」が高い人ほど持ち家派が増加傾向
- 「金融リテラシー度」が高い人ほど返済割合の意識が高い傾向



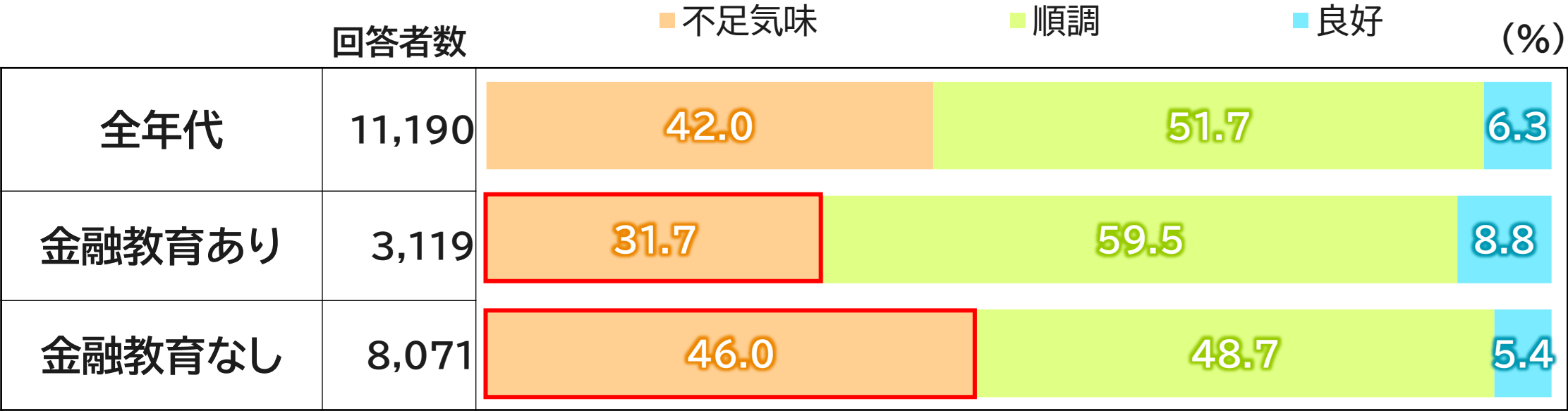
働く目的

- 「金融リテラシー度」が高い人ほど「お金以外」のために働く傾向

金融教育経験がある人は「金融リテラシー度」が高い傾向

- 過去に金融教育経験のある人は、経験のない人よりも「不足気味」の割合が14.3%少ない結果となった

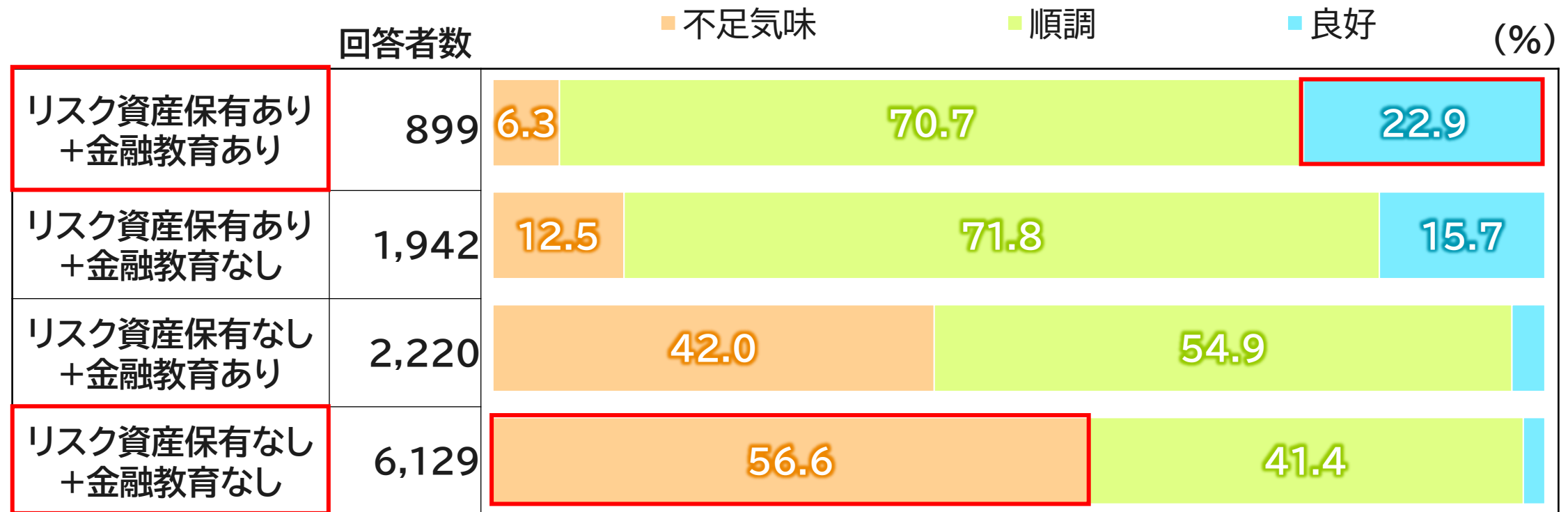
図表4 「金融教育経験有無」と「金融リテラシー度」



(出所)三井住友トラスト・資産のミライ研究所「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2023年)よりミライ研作成

- 「金融教育あり」かつ「リスク資産保有あり」で「良好:22.9%」と、4セグメントにおける「良好」の値が最大となった
- 「金融教育なし」かつ「リスク資産保有なし」で「不足気味:56.6%」と、どちらも「あり」の「不足気味」と比べ大きな差となった

図表5 「金融教育経験有無」×「リスク資産保有有無」と「金融リテラシー度」



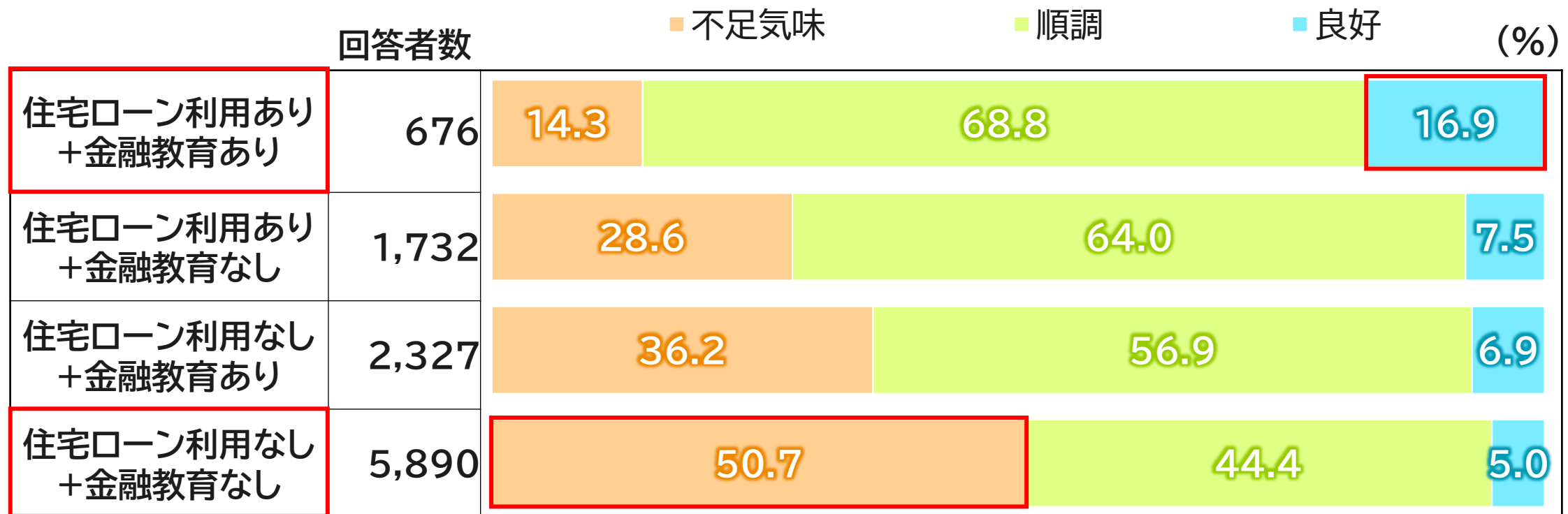
(出所)三井住友トラスト・資産のミライ研究所「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2023年)よりミライ研作成

*5%未満はグラフ内の比率表示を省略

Copyright © SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

- 「金融教育あり」かつ「住宅ローン利用あり」で「良好:16.9%」と、4セグメントにおける「良好」の値が最大となった
- 「金融教育なし」かつ「住宅ローン利用なし」で「不足気味:50.7%」と、どちらも「あり」の「不足気味」と比べ大きな差となった

図表6 「金融教育経験有無」×「住宅ローン利用有無」と「金融リテラシー度」



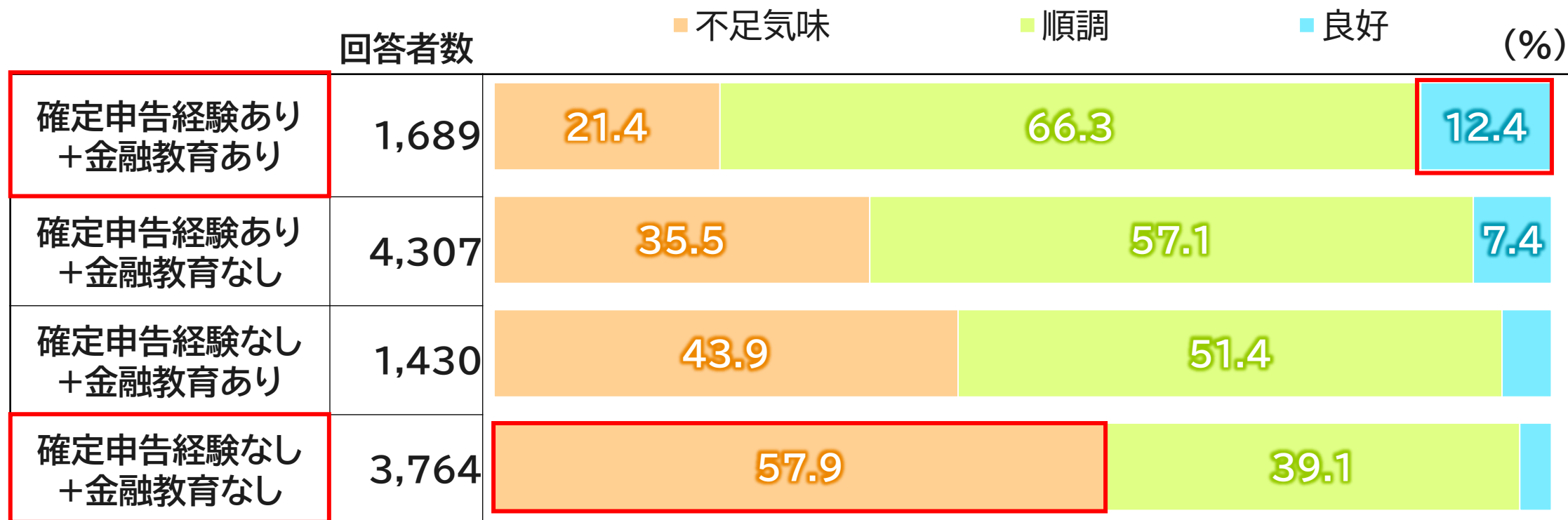
(出所)三井住友トラスト・資産のミライ研究所「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2023年)よりミライ研作成

* 住宅ローンの利用有無: 選択肢「わからない・覚えていない」を除く * 5%未満はグラフ内の比率表示を省略

【ご参考】 知識×実践で「金融リテラシー度」に大きな差(確定申告経験)

- 「金融教育あり」かつ「確定申告経験あり」で「良好:12.4%」と、4セグメントにおける「良好」の値が最大となった
- 「金融教育なし」かつ「確定申告経験なし」で「不足気味:57.9%」と、どちらも「あり」の「不足気味」と比べ大きな差となった

図表7 「金融教育経験有無」×「確定申告経験有無」と「金融リテラシー度」



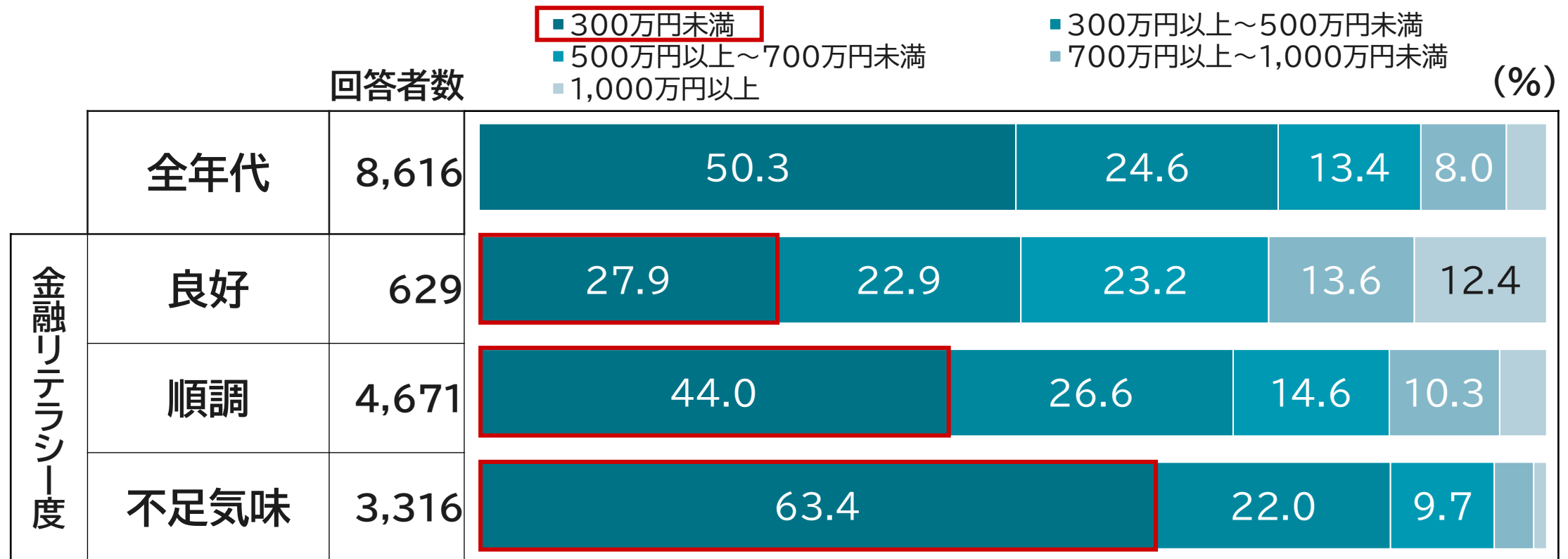
(出所)三井住友トラスト・資産のミライ研究所「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2023年)よりミライ研作成

*5%未満はグラフ内の比率表示を省略

「金融リテラシー度」が高い人ほど年収が高い傾向

- 「金融リテラシー度」が高いほど、年収300万円未満の割合が減少
- 「金融リテラシー度」が高いほど、年収も高い傾向

図表8 「金融リテラシー度」と「年収」

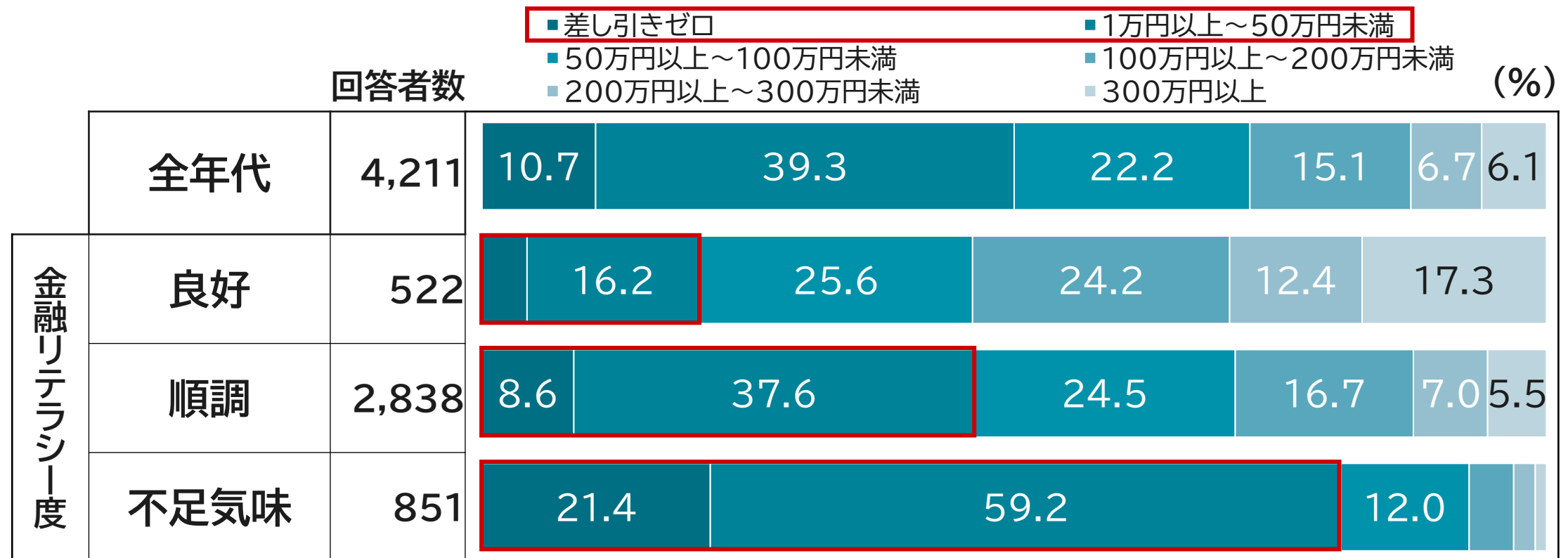


*「無回答」、選択肢「わからない・答えたくない」を除く *年収:自身の去年1年間の年収総額(税引き前) *5%未満はグラフ内の比率表示を省略

「金融リテラシー度」が高い人ほど年間の資産形成額が多い傾向

- 「金融リテラシー度」が高くなるにつれて年間資産形成額「差し引きゼロ～50万円未満」の割合が大きく減少
- 「金融リテラシー度」が高いほど、年間の資産形成額が高い傾向にある

図表9 「金融リテラシー度」と「年間資産形成額」



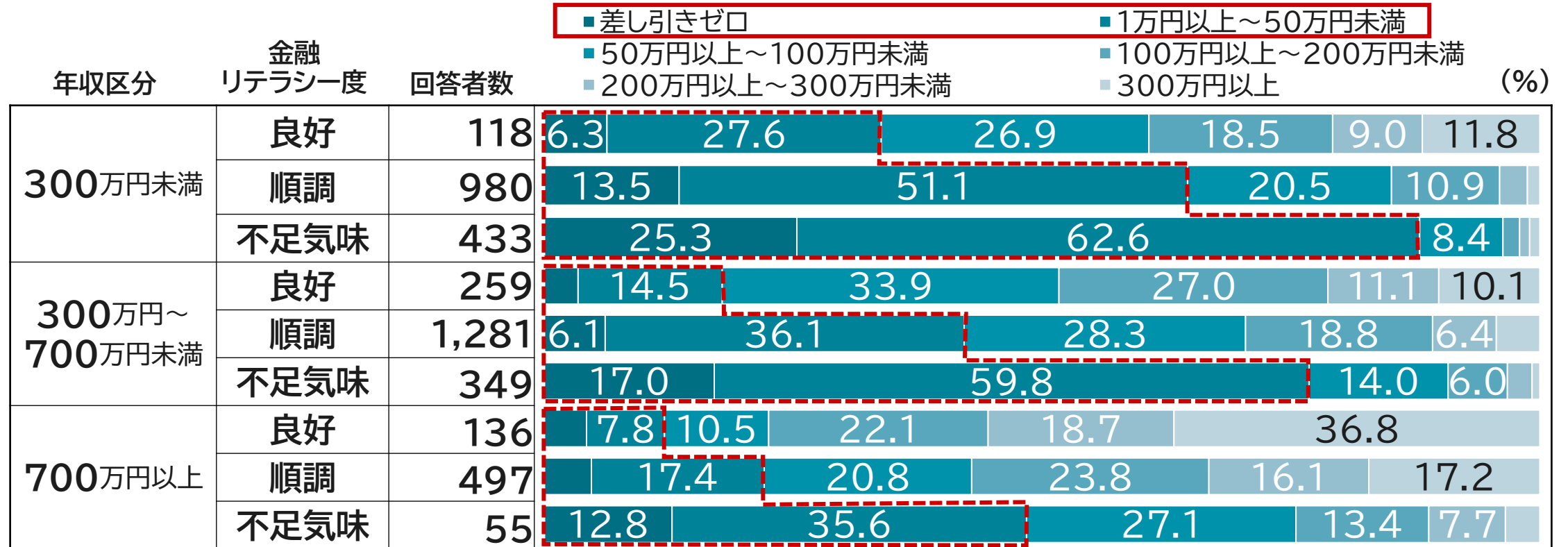
*「無回答」、選択肢「わからない・答えたくない」を除く *5%未満はグラフ内の比率表示を省略

年収に関係なく「金融リテラシー度」が高い人ほど資産形成額が多い傾向

三井住友トラスト・資産のミライ研究所

- 資産形成額「差し引きゼロ～50万円未満」の割合は、どの年収区分でも「金融リテラシー度」が高くなるにつれて減少している
- 年収区分に関係なく「金融リテラシー度」が高いほど、年間の資産形成額が多い傾向にある

図表10 <年収区分別>「金融リテラシー度」と「年間資産形成額」

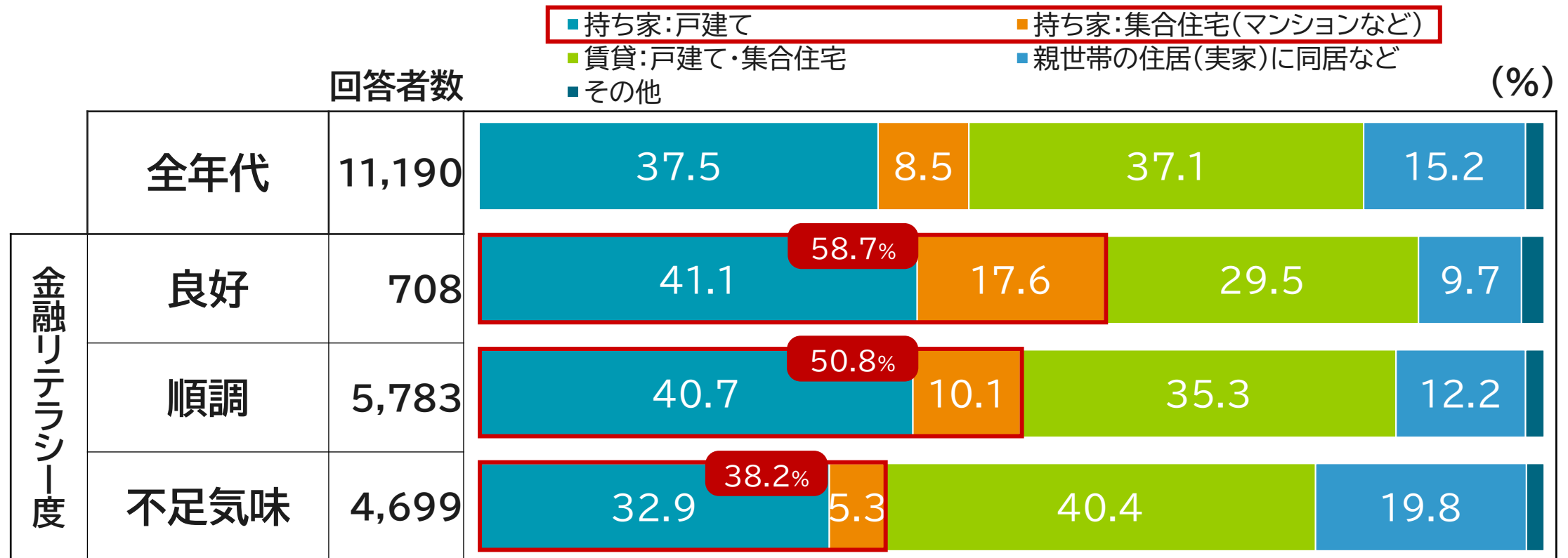


*「無回答」、選択肢「わからない・答えたくない」を除く *5%未満はグラフ内の比率表示を省略

「金融リテラシー度」が高い人ほど持ち家派が増加傾向

- 持ち家比率は「良好」:58.7%、「順調」:50.8%、「不足気味」:38.2%となった
- 「金融リテラシー度」が高いほど、住まいの選択は「持ち家」の割合が高くなる結果となった

図表11 「金融リテラシー度」と「住まいの選択」



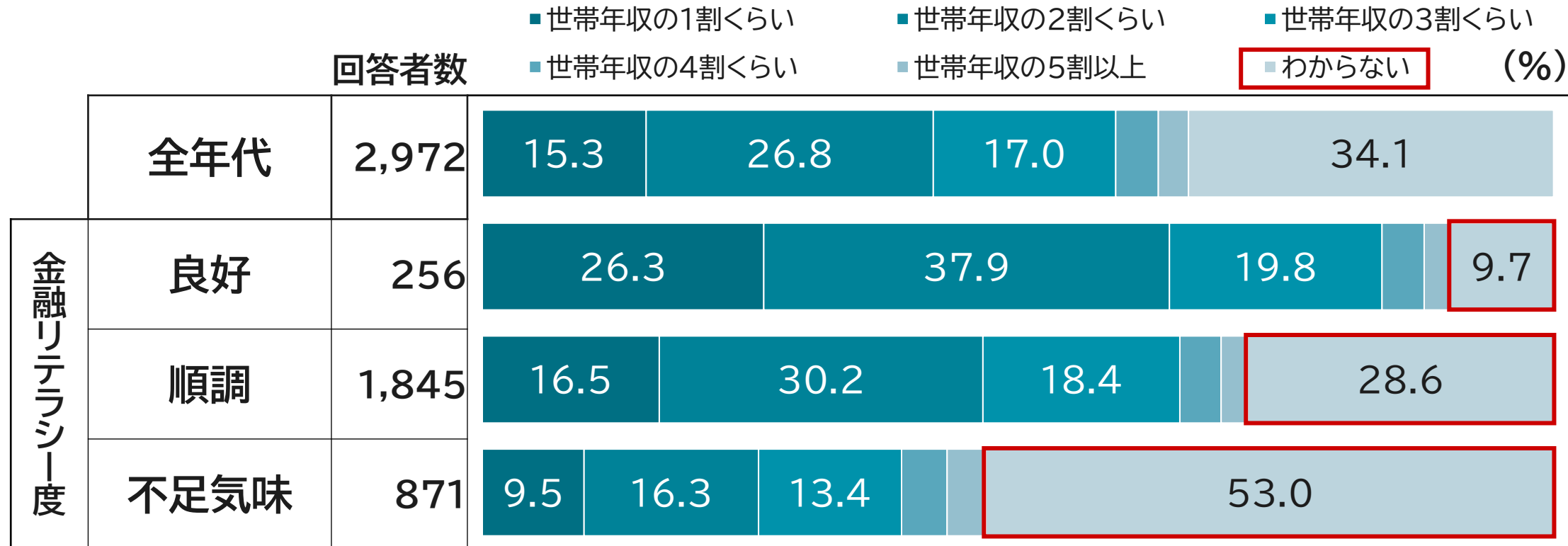
(出所)三井住友トラスト・資産のミライ研究所「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2023年)よりミライ研作成

*5%未満はグラフ内の比率表示を省略

「金融リテラシー度」が高い人ほど返済割合の意識が高い傾向

- 住宅ローン返済割合が、「わからない」の回答が「良好」:9.7%、「順調」:28.6%、「不足気味」:53.0%と大きな差がみられた
- 「金融リテラシー度」が高いほど、自身が組んだ住宅ローンの返済内容を正確に認識している傾向がある

図表12 「金融リテラシー度」と「年収に占める住宅ローン返済割合」



(出所)三井住友トラスト・資産のミライ研究所「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2023年)よりミライ研作成

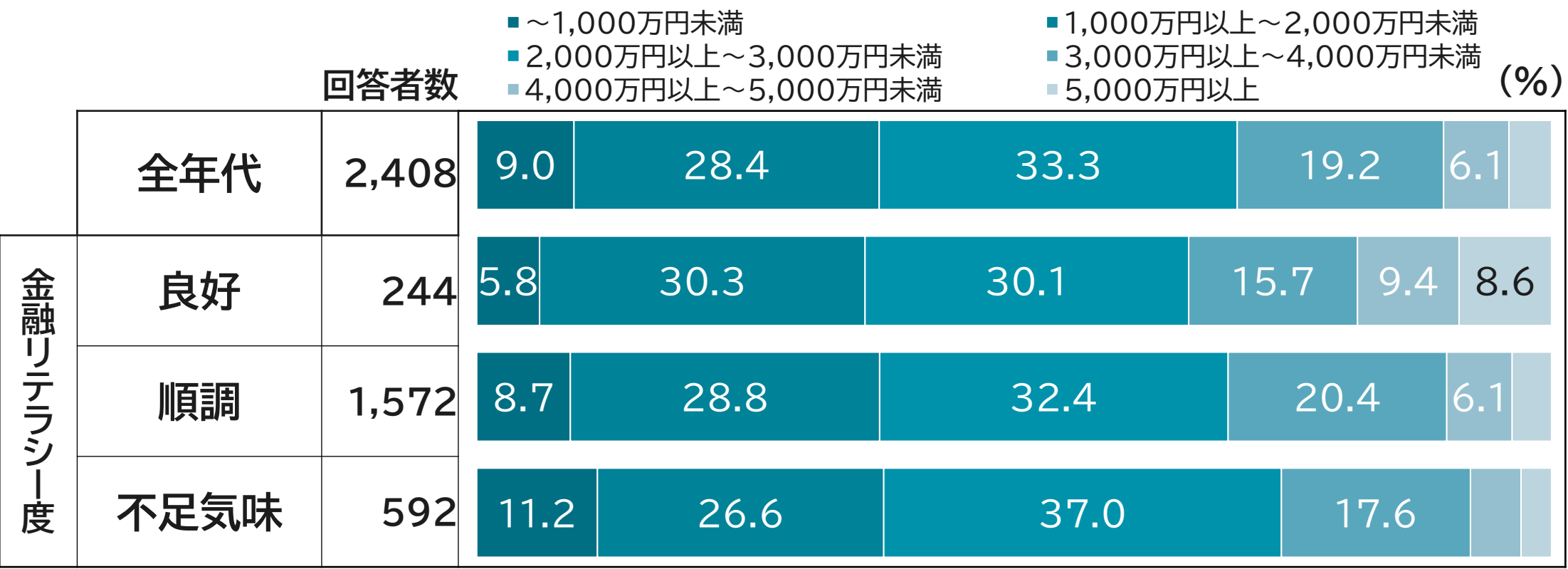
*回答者:住宅ローン利用経験者 *5%未満はグラフ内の比率表示を省略

Copyright © SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

【ご参考】「借入額」と「金融リテラシー度」に特徴は見られず

- 住宅ローンの借入額は「金融リテラシー度」において大きな差は見られなかった

図表13 「金融リテラシー度」と「住宅ローン借入額」

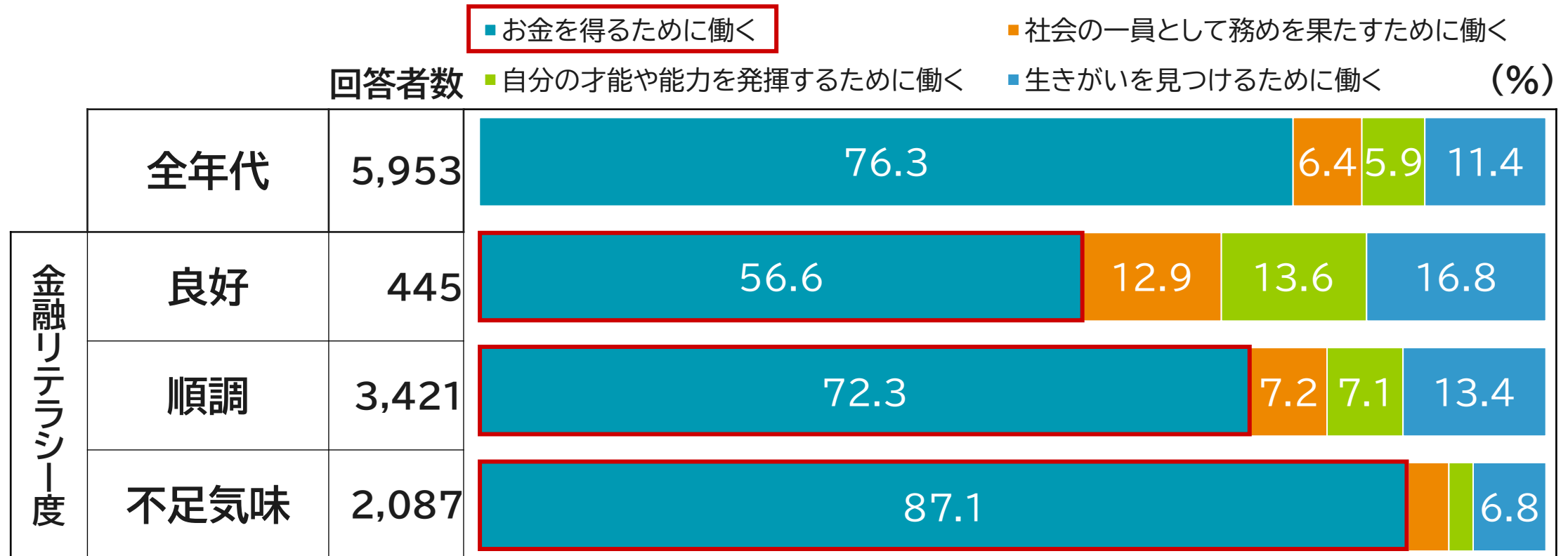


(出所)三井住友トラスト・資産のミライ研究所「住まいと資産形成に関する意識と実態調査」(2023年)よりミライ研作成
*回答者:住宅ローン利用経験者 *選択肢「わからない・覚えていない」を除く *5%未満はグラフ内の比率表示を省略
Copyright © SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED All rights reserved.

「金融リテラシー度」が高い人ほど「お金以外」のために働く傾向

- 「金融リテラシー度」が高いほど「お金を得るために働く」という回答は減少

図表14 「金融リテラシー度」と「働く目的」

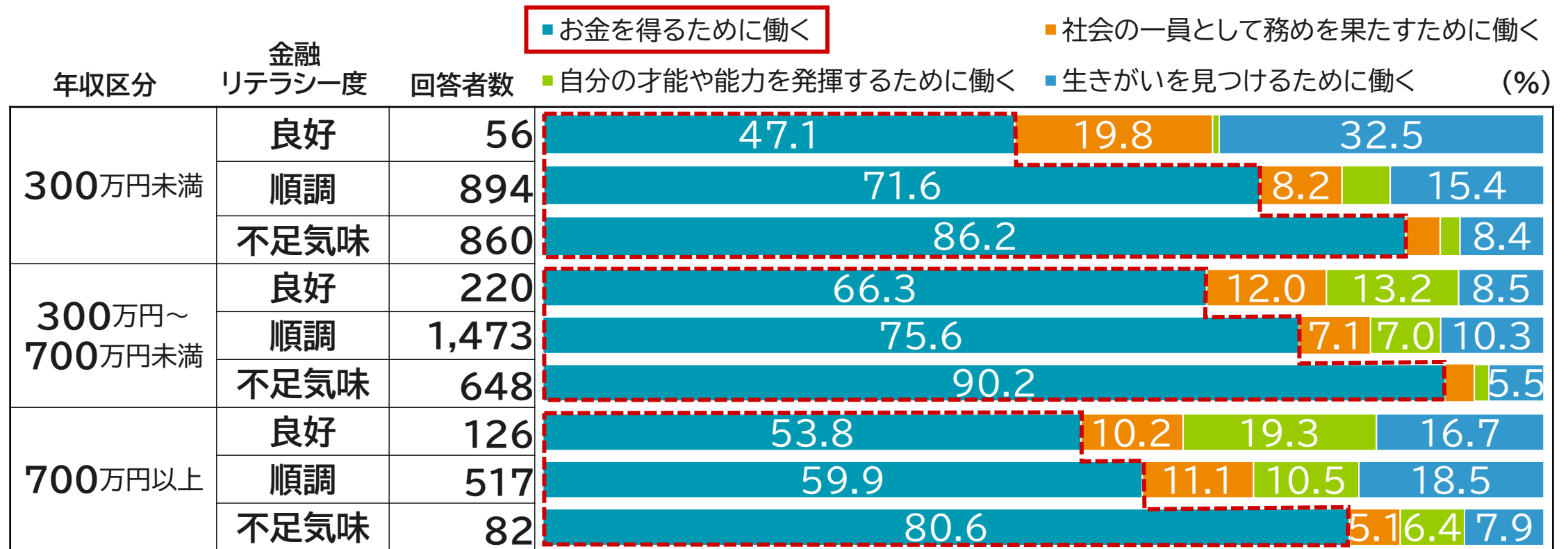


*選択肢「いずれにもあてはまらない・わからない」を除く *5%未満はグラフ内の比率表示を省略

「金融リテラシー度」が高い人ほど「お金以外」のために働く傾向

- 年収区分に関係なく、「金融リテラシー度」が高いほど「お金を得るために働く」という回答は減少

図表15 <年収区分別>「金融リテラシー度」と「働く目的」



*選択肢「いずれにもあてはまらない・わからない」を除く *5%未満はグラフ内の比率表示を省略

- 本資料は、情報の提供を目的として作成しており、具体的な対応についてはお客様のご判断により行っていただくことになります。お客様のご判断によって行ったご対応の結果生じた損害につきましては、弊社は一切責任を負いません。
- 本資料は、作成日において弊社が信頼できると判断した情報等に基づいて作成したものであり、その情報の正確性・確実性について保証するものではありません。また、今後の金融情勢・社会情勢等の変化により、内容が変更となる場合がございます。
- 本資料に係る一切の権利は、他社資料の引用部分を除いて三井住友信託銀行に属し、いかなる目的であれ本資料の一部または全部の無断での使用・複製は固くお断り致します。本資料の一部または全部を転載・複製する際は、弊社にご照会くださいますようお願い申し上げます。

ご照会先

三井住友信託銀行

三井住友トラスト・資産のミライ研究所

mirai@smtb.jp

作成日: 2023年7月13日
564-23-2044